

同推協だより

No.125

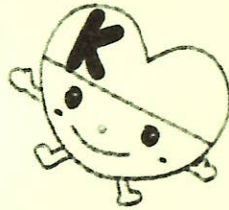
2020年 12月発行
 神前地区同和教育推進協議会
 Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

早いもので、2020年も残り一月となってきました。一年前の今頃は誰も予想しなかった、新しい日常を模索する日々の中、同推協活動も徐々に活動を進めています。

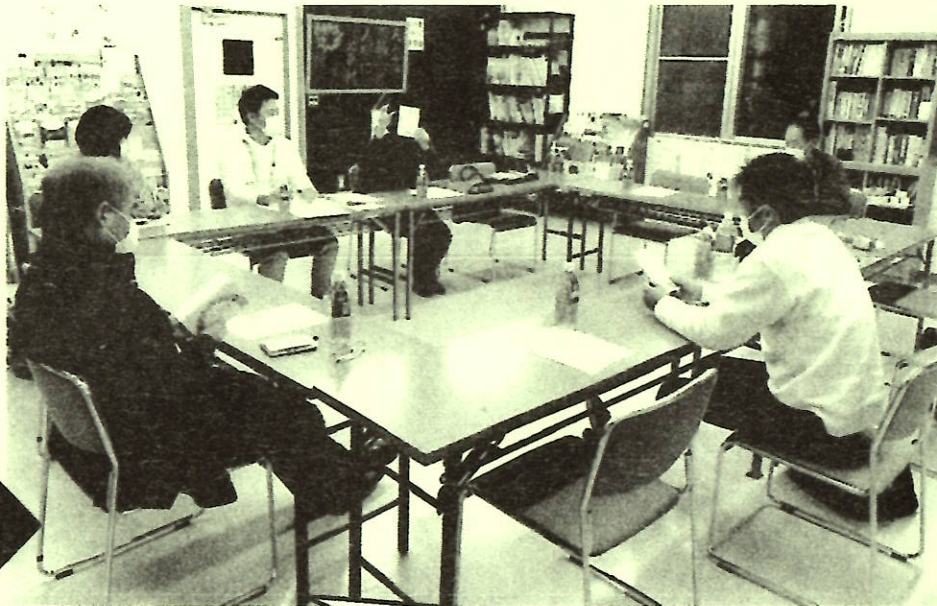
11月には、延期となっていた啓発委員研修会を2回開催し参加者はのべ253人でした。また予定していたフィールドワークに替え、講演会を実施。町別・団体別懇談会も行われつつあります。

本格的な冬を迎え新型コロナの感染拡大も心配される毎日ですが、長年続いている同推協活動の歩みを止めないよう、感染予防に努めながら「人権のまち・かんざき」をめざした取り組みを地域の皆さんと共に、進めていきたいと思ひます。

今年の研修テーマは「部落差別のことでじぶんのことを語ろう」
 ～知らんぷり・無関心を考える！～



無関心
 それも差別を
 広げてる



啓発委員研修会の様子
 マスクをして、距離を取って！

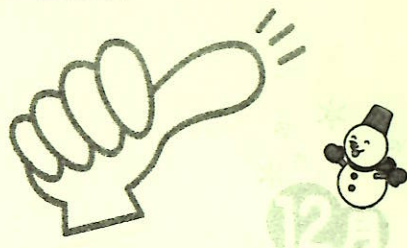
高校時代、祖母に「あそこは気をつけな。」と言われ、そのまま受け入れていた。大人になって研修会に参加して、(あれは差別だったんだ!)と気付いた。もし研修を受けていなかったら、私も誰かに「気をつけな」と言っていたかも知れない。学べてよかった。正しく知ることが、差別をしない第一歩、心からそう思う。
 <参加者の声より>

三湾中学校1年生の標語です。(広報部が選んだ「いいね!」作品)

うわさ話 その一言は 真実か? (山口 和樹)

考えよう そのいじりは 人を傷つける (伊藤 慶次)

言葉の重さを 知ろう (森 愛結)



今から16年前、2004年に書かれたメッセージ。この時結婚した息子さんのお嫁さんは今、啓発委員としてお義母さんと共に、差別をなくす仲間となっています。家族で人権問題が語れるってステキですね!

16年後のお嫁さんの声

保育園の保護者会で、初めて同推委員になった。全く何も分からない...。義母が学んだ研修会の資料を読み、ドキドキしながら参加。それから、差別の問題など息子や義母や家族みんなまで話し合っている。人権学習の先輩である義母とは、キャラは違う私だけど、一緒に差別をなくす取り組みに参加していきたい

あれから五年の私
 ある懇談会の場で、
 「今もある差別の現状の中、子どもの幸せを考えると、同和地区の人の結婚は考えてしまう。」という私に、「うちの子の幸せは？」と、
 ばげかけられた言葉は、
 私の心の中に深くとき、
 今も折につけ、自分自身を問い直す、
 大事な大事な言葉となっています。
 あれから五年、私の息子は、この春、結婚します。
 自分の中の差別心に気がつき、
 痛くもがいたあの時がなかったら、
 今ごろ、私は結婚相手の娘の身元など、
 調べている親ごまかかも知れません。
 幸せの意味をばき違えて、
 大きな間違いをおかしていたかも知れません。
 ああ、間に合って良かった。
 心から「幸せ」を祈っています。
 2004・2・8

研修テーマに関わって、以前の啓発委員・大森洋子さんが作成された絵本を抜粋して紹介します。

1 私には差別していません
 友だちもいるし
 懇談会にも参加しています
 でも何か重いのです

2 私をよく考えてみると
 結婚はちょっと考えらわ
 思っていました
 そこに生まれてかわいそうと
 同情していました
 しゃべる時には気を使って
 話をしていました
 重いと思っていたのはこんなにも
 たさんのものを持っていただけです

3 世間といっしょに
 差別をしているのがわかった私でした
 まだ私の中には
 気づかない部分がある
 があるような気がしますが
 だから悩みながらもまた
 懇談会に参加しています

4 今のところ私にみえてきたものは
 私なりにわかっていたことは
 歴史を調べたり
 本を読むことではなく
 人と出会って
 人を通して考えることが
 差別に気づくことでした
 差別していませんとは
 言いきれない私でした

作) 大森洋子さん

同推協啓発委員
 募集中!

啓発委員になって頂ける方は市民センター団体事務局入口前に設置してあるポストにお名前を記入して頂き投函して下さい。申込用紙は置いてあります。

【問合せ先】地区市民センター内 団体事務局 ☎327-1501 (午後受付)